

## 萩生田文部科学大臣コメント

令和元年 12 月 3 日

本日、経済協力開発機構(OECD)が 2018 年に実施した「生徒の学習到達度調査(PISA)の調査結果」が公表されました。

今回の調査結果によると、数学的リテラシー及び科学的リテラシーは、引き続き世界トップレベルですが、読解力については、OECD 平均より高いグループに位置しているものの、前回 2015 年調査よりも平均得点及び順位が低下しています。

今回の中心分野として詳細な調査が行われた読解力については、低得点層が増加しており、学習指導要領の検討過程において指摘された、判断の根拠や理由を明確にしながらか自分の考えを述べることなどについて、引き続き、課題が見られることも分かりました。

さらに、学習活動におけるデジタル機器の利用が他の OECD 加盟国と比較して低調であることも明らかになりました。

文部科学省としては、これらの課題に対応し、児童生徒の学力向上を図るため、

- ・ 来年度からの新学習指導要領の着実な実施により、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善や、言語能力、情報活用能力育成のための指導の充実
- ・ 学校における一人一台のコンピュータの実現等の ICT 環境の整備と効果的な活用
- ・ 幼児期から高等教育段階までの教育の無償化・負担軽減等による格差縮小に向けた質の高い教育機会の提供

等の取組を学校、教育委員会等の関係者と連携・協力して推進してまいります。